

もの言う牧師のエッセー 第161話

「ロゼッタ」

2004年3月にフランス領ギアナから打ち上げられた 欧州宇宙機関（ESA）の彗星探査機「ロゼッタ」が、今年8月、総距離60億キロの旅を経てチュリュモフ・セラシメンコ彗星に到着。さらに11月12日、同彗星に向け投下された着陸機「フィラエ」は無事にランディングに成功し、人類史上初の彗星着陸機となった。ミッションの目的は彗星構成物質、要するに水の採取による「生命の起源の解明」であり、先ごろ種子島から打ち上げられた「はやぶさ2」も概ね同様である。

ロゼッタの名を聞いてニヤリとしたクリスチャンは多い。その由来は19世紀末にフランス皇帝ナポレオンのエジプト遠征の際に、フランス軍大尉がナイル川河口最西端の町ロゼッタで発見した石碑「ロゼッタ・ストーン」だからだ。この石碑には、それまでは全く分からなかった古代エジプトの神聖文字（ヒエログリフ）と民衆文字が当時の使用言語ギリシャ語併記で彫られているために、その解読が可能となり、後にナイル川中洲で発見された「フィラエ・オベリスク」と共に世界を揺るがす考古学上の大発見であり、現在でもそれを所蔵する大英博物館では最も人気のある展示品だ。

実は世界最古の本である聖書は古代エジプトと大いに関係がある。なぜなら聖書の最も古い箇所である創世記から申命記までの五巻、通称“五書”は、エジプトで文字や法律などの帝王学を学んだヘブル人モーセが記したからである。その主たる内容である“律法”は難解かつ長文の「神と人間との契約」ゆえに、口伝ではなく書き記す必要があり、モーセこそが最適任者だったのだ。そこにはこう書いてある。

「誠に、私が今日あなたに命じるこの命令は、あなたにとって難し過ぎるものではなく、遠くかけ離れたものでもない。これは天にあるのではないから、『だれが、私たちのために天に上り、それを取って来て、私たちに聞かせて行なわせようとするのか。』と言わなくてもよい。誠に、み言葉は、あなたのごく身近にあり、あなたの口にあり、あなたの心にあって、あなたはこれを行なうことができる。」申命記 30章 11-14節、

と。どうやら3500年前の古代の人々も、“神”は神秘的で遙か宇宙にいると解釈したらし

い。だが、さらにこの1500年後に、神は「そうではない。ここにいる」とキリストを送ってくださった。それほどややこしい話ではない。宇宙と生命を創造した神を、誰でもすぐに信じていることができる。宇宙に思いを馳せる時、神を崇めよう。 2014-12-12

